

# 大麦情報(4号)

令和6年2月27日  
砺波農林振興センター  
JAなんと営農部

今年は積雪が少なく、生育が早くなっています。ほ場に雨水などが停滞しないように、早急には場の排水状況を確認しましょう。

- ①排水対策を徹底しましょう。
- ②分施肥体系の場合は追肥を行いましょう。

雪解後、ほ場に水が多く停滞し、根が腐り、低収となった(H30)



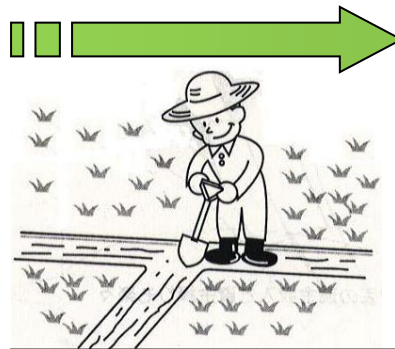
額縁排水溝	無	有
根量	3.2g	15.3g

図 止葉展開期の根の状況 (H30 南山田地区)

## 1 排水対策

排水不良のほ場では根が腐り、登熟不良となります。

すぐにほ場の排水状況を確認し、雨水などが停滞しないように溝を手直しましょう。



溝を連結し、排水を促す



## 2 消雪後追肥の施用 ~追肥前に排水を良くし、肥料効率を高めましょう~

### (1) 分施肥体系(基肥:「基肥555」)

施用時期(3月1~4日頃)	莖数	硫安の施用量
ほ場に停滞水がない状況で 施用直後に多雨や降雪が予想されない頃	少~並	20kg/10a
	多※	15kg/10a

※莖数:多は、麦が繁茂し、土が見えないようなほ場(m<sup>2</sup>当たり1,200本以上)。

### (2) 肥効調節型体系「エコ大麦44号」

莖数が多いなど生育量が確保されています。倒伏が懸念されるため、追肥は不要です。なお、色が極端に淡い場合などはご相談ください。

JAなんとメール  
マガジンの登録は  
こちらから↓



お問い合わせ: 砺波農林振興センター(32-8147)またはJAなんと営農部(62-0261)